横浜市立 子安小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 4 ～ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度 具体的取組	令和 4 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①算数科の校内重点研究を通して、子どもたちが「学ぶ楽しさ」を実感できる授業づくりに取り組む。 ②生活科や『横浜の時間』を中心に問題解決的な学習を行いながら、子どもの主体性や表現力を高めていくようにする。	①学ぶ楽しさを実感できる授業を目指して、算数科を中心に日々の教材研究に取り組んだ。今後も引き続き、教職員同士が学び合う機会を大切にしながら、授業改善を行っていく。 ②授業の中で、子どもたちが自分の考えを表現することはできている。問題解決的な学習については、今後も意識して取り組んでいく必要がある。	B
豊かな心	①道徳の時間や各教科の授業において、自他を思いやる心を育てていく。 ②人権月間に限らず、思いやりの心や多様性を認めることの大切さを学ぶ機会を各学年で設けていく。 ③年間を通して「挨拶運動」を全校で実施し、進んで挨拶をする習慣を養っていく。	①自他を思いやる気持ちを育てていけるよう、学級づくり・集団づくりを大切にしていく必要がある。 ②学年で思いやりの心や多様性を認める大切さを学べる活動をさらに行っていきながら、教職員の意識改善もしていくことが大切である。 ③教職員が率先して挨拶をし、「挨拶運動」を盛り上げていく必要がある。	B
体育・健康	①縄跳び運動を通して、体を動かすことの楽しさや、能力を高めることの喜びを感じられるようにする。 ②学校保健委員会を年2回行い、健康について学び、今後につなげるきっかけとする。	①クラスや児童によって、取組状況に差が出てしまい、短縄をきっかけに外遊びを増やすことは十分には達成できていない。児童が取り組みやすい活動を検討していく。 ②学校保健委員会を年2回行い、テーマに対して年間を通して取り組む形にしたことで健康を意識しながら生活することにつながった。	B
キャリア教育	①学区の商店・企業、各種団体や関係機関等と連携した単元・授業づくりを行っていく。そして、本物に触れ、プロフェッショナルな人などとの関わりを通して、体験的に学ぶ場を積極的に取り入れていく。 ②1人1台のタブレット等を活用し、外部講師によるプログラミング教育を全学年で体系的に実施し、活動の充実を図っていく。	①学区の商店や企業等と連携した授業づくりやプロフェッショナルな人と関わる機会の設定については、クラスによってやや偏りが見られた。子どもたちが体験的に学ぶ機会を充実させていきたい。 ②1人1台のタブレットを活用し、外部講師やICT支援員の協力を得て、全学年で体系的にプログラミング教育を実施した。	B
いじめへの対応	①安心して相談できる関係性の構築、定期的なアンケート、個別の面談を通して状況の把握に努める。 ②児童同士の適切な人間関係の確立や自己有用感の醸成に努め、いじめの未然防止を図る。 ③児童支援専任を中心とした組織的な指導・支援体制を整え、教職員が連携していじめ等問題行動の早期発見と対応を行う。	①今後も、児童との個別の面談の時期や時間を工夫し、実態をより的確に把握できるように努める。 ②「横浜プログラム」等を活用した取組の充実を行っていく。 ③それぞれがもっている情報を積極的に伝え合う中で、さらに全教職員の連携のもとに対応ができるようにする。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①計画的な研修の実施により、指導力や危機管理能力等、今学校に求められる教職員の資質・能力の育成に努める。 ②臨任や本校を初任校とする教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の充実した活動を計画的に行う。 ③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、全教職員の組織的な働き方改革につなげていく。	①教職員の資質・能力の育成を目指し、様々な研修を実施してきた。さらなる充実のために、研修の目的をより明確にしたり、実施時期を検討したりしていく。 ②過去の授業実践や教材、クラスの取組等の共有をすることで、授業力の向上を目指し、効率的に活動してきた。今後は、より多くの職員に授業を参観してもらったり、事後研究会に参加してもらったりできるように、授業研究会の日程を設定する。また、活動内容を学校全体に発信していく。 ③教職員向けグループウェア（ミライム）やクラウド型ビジネスチャットツール（LINE WORKS）を活用して、業務の効率化や情報共有を行ってきた。今後も全教職員の働き方改革を進めていく。	B
地域学校協働活動	①学校運営協議会から教育活動や喫緊の課題についての意見をいただき、学校運営の改善に生かしていく。 ②こやすキラキラ応援隊（地域学校協働本部）と連携して、保護者や地域のボランティアを活用し、教育活動の充実を図る。 ③学校が主導となって保護者と連携し、登校班編成とその活動が適切に機能するよう調整を図る。	①学校運営協議会からいただいたご意見を、学校運営の改善に生かすことができた。今後は教職員間での情報共有をこれまで以上にしっかりと行っていく。 ②こやすキラキラ応援隊と連携することで、どの学年も教育活動を充実させることができた。さらなる充実のため、教職員・保護者に向けてこやすキラキラ応援隊の活動について情報発信をしていく。 ③担当者が中心となって取り組んできた。職員全体への情報共有をこれまで以上にしっかりと行っていく。	B
ブロック内評価後の気付き	小中学校で互いの授業を参観したうえで、意見交換することで、各教科等の授業を充実させるための情報交換ができた。また、コロナ禍での授業の在り方や指導方法、ICTを活用した授業の展開などについても意見交換ができた。3年ぶりに6年生が中学校に行っての児童生徒交流を行い、実際に中学校の授業や部活動を体験することで、進学後の学校生活のイメージを広げることにつながった。職員同士や児童と生徒・職員と交流することは、小学校から中学校へのスムーズな連携に向けた小中相互の理解を深める機会となった。今年度の取組を生かし、今後も情報交換を行いながら、研究を進めていきたい。		
学校関係者評価	今年度の本校の教育活動について、学校運営協議会で様々な視点から意見をいただいた。 挨拶の習慣化については、地域、保護者、教職員で同じ方向を向いて、日常の中で挨拶することを価値付けたり、大人が率先して挨拶したりすることで、子どもたちの挨拶に対する姿勢を向上させていく必要がある。タブレット端末の活用については、昨年度より活用が進んでいるので、引き続き、試行錯誤をしながら進めていってほしい。 授業参観をした委員からは、子どもたちの学ぶ姿や教師の指導、教師と児童との関係、教室内の環境などについて、高い評価を得られた。		
中期取組目標振り返り	本年度の7つの重点取組分野における教職員の自己評価はすべてB評価となった。各活動の取組に関しての職員間での情報共有が不十分であったことや、コロナによって見通しが立ちにくかったことが原因であると思われる。一方で、創立150周年を迎えた本校にとって、周年行事関連の活動や、地域の方を招いて祝う会を行うことができたことは、有意義なことであった。引き続き、タブレット端末の活用や、学校からの情報発信、職員間での情報共有の改善を進めていく必要がある。今後も「こやすキラキラ応援隊」との連携を行い、地域の方との関わりをさらに増やし、教育活動の充実を図っていきたい。		

重点取組分野	令和 5 年度 具体的取組	令和 5 年度 自己評価結果	総括
授業改善	b1		
豊かな心	b2		
体育・健康	b3		
キャリア教育	b4		
いじめへの対応	b5		
人材育成・組織運営(働き方)	b6		
地域学校協働活動	b7		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度 具体的取組	令和 6 年度 自己評価結果	総括
授業改善	c1		
豊かな心	c2		
体育・健康	c3		
キャリア教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
地域学校協働活動	c7		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			